

**製品名: エフリン A5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10537**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	26kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EFNA5
別名	EFNA5; EPLG7; LERK7; Ephrin-A5; AL-1; EPH-related receptor tyrosine kinase ligand 7; LERK-7
遺伝子 ID	1946.0
SwissProt ID	P52803
免疫原	エフリン A5 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 130-210

**背景**

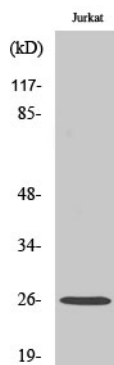
エフリン遺伝子ファミリーの一員であるエフリン A5 は、大脳皮質ニューロンとアストロサイトの共培養において、軸索の束形成を阻害します。アストロサイトは神経系の発生・分化後期のモデルです。EPH および EPH 関連受容体は、受容体タンパク質チロシンキ

ナーゼの最大のサブファミリーを構成し、特に神経系の発生過程の調節に関与していることが示唆されています。EPH 受容体は通常、単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプ III リピートを含む細胞外領域を有します。エフリンリガンドおよび受容体は、Eph 命名委員会 (1997 年) によって命名されました。構造および配列関係に基づき、エフリンは、グリコシルホスファチジルイノシトール結合によって膜に固定されるエフリン A (EFNA) クラスと、膜貫通タンパク質であるエフリン B (EFNB) クラスに分類されます。Eph ファミリーの受容体も同様に分裂機能を有します。軸索束形成を刺激するために積極的に機能する可能性があります。同族受容体の細胞外ドメインに結合すると、カベオラ様膜マイクロドメイン内で区画化されたシグナル伝達を誘導します。このシグナル伝達には、Fyn チロシンキナーゼの活性が必要です。類似性: エフリンファミリーに属します。細胞内局在: 個別のカベオラ様膜マイクロドメインに区画化されています。サブユニット: EPHB2 に結合します (類似性による)。受容体チロシンキナーゼ EPHA2、EPHA3、および EPHB1 に結合します。、

## 研究分野

軸索ガイダンス;

## 画像データ



エフリン A5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析